

台南市担当者（手前右）と一緒にビルの倒壊現場を調査する和田章・東京工業大名誉教授（左から2人目）（13日夜、台湾・台南市）＝田村充撮影



【台南（台湾南部）】笠本貴子】台湾南部の地震の発生から1週間が経過した13日、日本建築学会元会長で耐震工学が専門の和田章・東京工業大名誉教授（70歳、台南市を訪れ、16階建てビルの倒壊現場を調査し

行方不明者の捜索が終了した倒壊現場では、重機によるがれきの撤去作業が進んでいた。土ぼこりで視界

歩き回りながら、ビルの柱の中にあつたとみられる鉄筋を見つけ、「鉄筋の間隔が広すぎる」と指摘した。

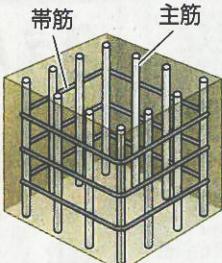
和田氏は市当局者から、南東側の低層階から傾いた

倒壊時の様子を聞いた上で、倒壊前の写真を見て、ビルの構造上の問題も指摘した。「南東側の柱の数が極端に少ない」と分析し、「南東側が傾いた後、鉄筋不足で強度が足りない周囲の柱に力がかかり、次々と壊れたのだろう」と推測した。

和田氏は「今回のビルは

## 台湾地震 日本の専門家が調査

### ◆強度を保つ鉄筋の構造



最悪の設計だった。日本でも、1971年より前は、鉄筋の間隔に関する規制が緩かった。台湾を教訓に古いビルの耐震改修を進める必要がある」と話した。

井ゆう子】台南市の賴清德市長は13日午後、記者会見。賴市長のほか市幹部らが出席し、犠牲者に默とうをさげた。また、賴市長は、日本政府からの支援に対し

【台南（台湾南部）】向井ゆう子】台南市の賴清徳市長は13日午後、記者会見。賴市長のほか市幹部らが出席し、犠牲者に默とうをさげた。また、賴市長は、日本政府からの支援に対し